

2012年3月29日

「原発」大阪市民投票の議会採決について

一昨日、大阪市会は、私たちが55,428筆の連署をもって制定を請求した「原発」市民投票条例案を反対多数で否決しました。原案（署名簿にも記してある私たちの元々の案）に賛成したのは共産党の議員のみ。他の議員は全員反対でした。各紙の報道でもそう伝えていきます。

ただし、自民党は「投票権者」について、[永住外国人も認める。16歳以上に認める]という原案中の記述を「20歳以上の日本国籍を有する者」に差し替える修正案を提出し、OSAKAみらい（民主党系）がこれに同調して賛成しました。

つまり「原発」市民投票の実施に反対したのは、橋下市長自らが代表を務める大阪維新の会と公明党の議員のみで、自民、OSAKAみらい、共産の議員は実施賛成の姿勢をとったということです。

修正案についての趣旨説明を行なった自民党会派代表の加藤仁子議員は、「原発」をどうするのかという重要な課題については、先の市長選挙において争点にはなっておらず、改めて主権者一人ひとりの意思を確認するのが妥当だと述べました。また、議場でこの修正案に賛成する討論を行なったOSAKAみらいの小林道弘議員は、採決後、市民からのツイートに返信する形でこのように記しています。

「先ほど大阪市民投票条例案に対する自民の修正案に賛成する討論を行なった。わが会派の中でも賛否両論、真剣な議論を経ての修正案賛成。『大阪市民投票の意義、原発の是非について市民と共に考えていく立場』と結んだ。しかし、残念ながら否決……

遅くまで傍聴ありがとうございます。議会の都合で長時間、また原案の否決になったこと心からお詫びします。でも、ここからがスタートです。皆さんが行動したことにより多くの議員が心を動かされました。このことは今後の議員活動に大きく影響します……

皆さんが厳しい寒さの中、6万人以上、自分も含めて多くの議員の心を動かしたという事実を皆さんの大きな財産としてこれからの活動に活かしてください。御苦労さま、ありがとうございます……」

署名収集時から一貫して実施に賛成してきた共産党はもちろん、自民党や民主党系会派のOSAKAみらいが、原案に近い形での「原発」市民投票の実施に賛成したという事実は、画期的なことです。これは、署名収集に携わった受任者やサポーターのみなさんが、このひと月余り、個々の議員に直接会って請求の意図や市民投票実施の意義を説明してきた成果の表われです。この面談により、多くの議員が抱いていたさまざまな疑問や懸念、誤解を払しょくしました。

それでも、維新の会の議員の橋下代表の仰せの通りという姿勢、公明党の次の総選挙における維新の会との選挙協力を優先しての「実施反対」という判断によって「原発」市民投票の実施は拒まれました。しかし、私たちは愚痴を言って終わるのではなく、来週にも、議員全員の「評価

シート」を作成して、市内全域で配布します。これは公開質問状への回答や面談に応じたか否かなど、この間の議員の対応、採決に際しての行動という事実を基に、個々の議員を評価するもので、主権者・市民にたいして自分の地元の議員がどんな人物・政治家であるかを理解してもらい、3年後の市議選挙の参考材料にしておうと考えています。

最後に、共産党のみならず自民党や民主党系会派の OSAKA みらいが、原案に近い形での「原発」市民投票の実施に賛成したという事実を広範な都民に広くPRすると同時に、「原発」都民投票実施の決定権を握る東京都議会議員にこの事実を強く突きつける動きを、速やかに展開する必要があると私たちは考えています。

本会の賛同人、サポーターのみなさんに、改めて力強い協力をお願いします。

市民グループ【みんなで決めよう「原発」国民投票】
事務局長 今井一